

「北アフリカ・地中海連携センターの協力活動について」

筑波大学初の海外拠点として 2006 年度発足した北アフリカ・地中海連携センター（チュニジア共和国チュニス市）の ARENA としての協力活動を報告します。

1. 在チュニジア日本大使館において、北アフリカ・地中海連携センターの安部征雄センター長（生命環境科学研究科・教授、北アフリカ研究センター長との併任）が、米国マグレブ研究所チュニス研究センター長 James MILLER 氏と会談し、日米協力によるマグレブ学術研究促進に向けての今後の協力体制について合意しました。米国マグレブ研究所は、ワシントン DC にあるスミソニアン協会の海外拠点委員会に属するもので、北アフリカ地域には、チュニスの他、モロッコ、アルジェリアにも同様の海外拠点を 20 年ほど前から設置しています。
2. チュニジア政府文化省主催の日本文化週間（7 月 12 日～17 日）に北アフリカ・地中海連携センターが後援で人文社会研究科青木三郎教授が実行委員として参加しました。本連携センターのチュニジアにおける役割、筑波大学および日本の学術諸機関とチュニジアとのつながりに関して、写真パネル展示などをおこない、またテレビ、ラジオ、テレビ、新聞等で広報を行う機会を得ました。
3. チュニジア科学技術省との共催で JBIC 日本留学奨学金プログラム説明会を開催し、JICA 専門家・生命環境科学研究科北アフリカ研究センター森尾貴広講師が講演を行いました。また、チュニジア国立農業研究所との共催で「水のリスクアセスメント」の講演会、チュニジア輸出振興庁との共催で「乾燥地生物資源の持つ可能性」の講演会を開催し、生命環境科学研究科北アフリカ研究センター磯田博子助教授が講演を行いました。